

JOMF 派遣医師便り (2014. 5)



胸部レントゲン検査結果に関する

”よくある質問” –マニラでの対応

マニラ日本人会診療所

菊地宏久

入学時学校健診や成人の定期健診時の胸部レントゲン検査で「肺尖部胸膜肥厚像」を指摘され、セカンドオピニオンを求めて受診される患者さんがとても多くおられます。今回は当地での対応と問題点について述べます。

胸部レントゲン検査は「肺や気管支に病変が無いか、心臓の形や大きさに異常が無いかなどをみるために行います。レントゲン検査で異常を指摘され、セカンドオピニオンを求めて受診される患者さんはたくさんおられますが、中でも「肺尖部胸膜肥厚像（はいせんぶ・きょうまく・ひこうぞう）」はよくみられる所見です。「肺尖部」とは肺の上部で鎖骨の裏側の付近を指します。「胸膜」とは肺を覆っている膜のことで、炎症や癒着を起こすと胸膜は厚くなりレントゲンにも異常が現れます。これを胸膜肥厚像と呼びます。

レントゲン像が時間の経過により変化していないか、を観察することも重要です。日本やフィリピンの病院で以前に撮影したフィルムが入手できれば更に適切なアドバイスがしやすくなります。以前の胸膜肥厚像と比べても変化が無く、患者さんに呼吸器症状が無ければ、良性の炎症性変化である可能性が高く“経過観察”としています。これらの場合、異常な影の多くは肺結核や非特異的な古い炎症後の変化で特に問題が無いことがほとんどです。

しかし既往症や受診時の呼吸器症状などから肺結核や悪性腫瘍などが否定できない場合には胸部 CT 検査や痰の検査などを強くお勧めしています。もちろん以前のフィルムとの比較でレントゲン像に変化が出ている場合には精密検査が必要です。

ただ、当地での検査には制限もあります。日本での精査が必要と考えた場合には病態に応じて紹介状を書き、日本での精査をお勧めしています。

どうぞお大事にしてください。